

◆青森中央学院大学 看護学部 カリキュラムマップ

建学の精神	愛あれ、知恵あれ、真実あれ
教育目的	青森中央学院大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させ、国際社会、国家及び地域社会の生活、文化の向上と産業経済の発展に貢献する人材の養成を目的とする。
教育方針	(1)学生が主体的に問題意識を深め、自ら学修を継続し、明日を創造する能力を育む。 (2)学ぶ側に立ち、学生が着実に理解し、身に付く教育を行う。 (3)知識を単に学ぶだけでなく、知識の活用を図り、生きた知を教える。 (4)教員同士が連携を保ち、教育内容及び教育方法の有機的なつながりを持って教育を行う。
学部の理念・目的	看護学部は、すべてを慈しむ人間性を有し、看護の課題に創造性豊かに取り組み、一人ひとりの「生」に寄り添い主体性に立脚する人材を育成します。また、地域社会の保健医療福祉に貢献できる高い専門性を有し看護を実践する人材を育成します。併せて、地域と連携を図りながら疾病の予防と看護の継続性を重視した健康課題の解決を目指した教育・研究により、人々の健康の維持増進と生活の質の向上に貢献します。 この教育研究上の理念に基づき、看護学部は、生命の尊厳を尊重し豊かな人間性を備えて一人ひとりの『生』に寄り添い、科学的根拠に基づく判断力と技術による実践力を有し、他の職種と協働しつつ看護の向上に資する研鑽力を養い、地域社会の保健医療福祉に貢献できる人材を養成することを目的としています。
ディプロマポリシー	<態度・志向> ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。 イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。 <知識・理解> ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。 <技能・伝達> エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。 <総合・統合> オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
カリキュラムポリシー	看護学部では、教育課程を「コモンベーシックス」「人間探究科目」「専門科目」の3つに区分し、それぞれの区分の科目群による教育及び学修が有機的に連携するように編成し、学生が体系的に学修できるようにする。 <教育課程編成方針> (1)現代社会に生きる職業人に不可欠な基本的技能を学ぶために「コモンベーシックス」を配置する。 (2)人間性を豊かにし、人間、社会、そして自然への理解を深め、人権を尊重・擁護する倫理観を学ぶために「人間探究科目」を配置する。 (3)看護の対象者を理解し、基礎・基本から実践・応用まで看護学の理論と技術を深め、実践を統合できる能力を身につけるために「専門科目」を配置する。「専門科目」は、「健康科学と看護実践」「人間発達と健康支援」「看護の統合と発展」の区分に編成する。 (4)看護の概念枠組みである人間・健康・環境の理解、一人ひとりの健康課題の分析、看護・援助技術の基礎を学ぶために「健康科学と看護実践」を配置する。 (5)人間の成長発達や対象者の健康課題に応じた専門的な看護を展開し、看護実践力や応用力を高めることを目指し、「人間発達と健康支援」を配置する。 (6)地域で生活する対象者と家族への看護を展開し、地域の健康課題の分析及び保健医療福祉関係者との協働・連携・調整力、看護を創造的に開発できる能力を養い自律性を高めるために「看護の統合と発展」を配置する。 <教育課程実施方針> (1)講義科目でも、課題学習やディスカッションの場を設け、能動的学びを啓発する。 (2)演習では、グループワークやプレゼンテーション・ディスカッションの場を適宜取り入れ、学生の主体性・問題解決能力・コミュニケーション力・チーム内での連携や協働の力などを培う。 (3)充実したモデル人形の活用や模擬患者を設定するなど、臨場感あふれる状況の中で、どのようにしたらよいか考えながら演習展開を行う。

◆カリキュラムマップ(科目分野ごと)

平成26年度より実施

科目区分	科目群	科目分野	ディプロマ・ポリシーの到達程度				
			<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
コモン・ベーシックス	外国語		○	◎	○		
	情報処理		○	◎	○		
人間探究科目	自己の探究		◎	○	○		
	社会の探究		◎	○	○	○	
	自然の探究		○	◎	○		
専門科目	健康科学と看護実践	人間の心身の理解	○		◎	○	
		健康障害と回復の理解	○		◎	○	
		健康支援と社会制度	○		◎	○	○
		基礎看護学	○	○	○	◎	
	人間発達と健康支援	母性看護学	○		○	◎	
		小児看護学	○		○	◎	
		成人看護学	○		○	◎	
		老年看護学	○		○	◎	
		精神看護学	○		○	◎	
	看護の統合と発展	地域・在宅看護学	○		○	○	◎
		看護の統合と発展		◎	○	○	○
公衆衛生看護学		○		○	○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【コモンスキックス】[外国語]				○	◎	○	
英語 I	平易な英文エッセイを通して、基礎的な文法や構文を学ぶとともに、読解力の向上を図る。さまざまなテーマを扱った平易な英文の読解を中心に進める。それぞれの授業では、構文の正確な理解を最も重視するが、同時にポイントとなる文法的内容を重点的に学び、基礎的な文法力習得の徹底を図る。また、ヒヤリングによる問題練習も取り入れる。	1.基礎的な文法の理解を確実にする 2.平易な英語の長文読解ができるようになる 3.基礎的な英文を用いたコミュニケーションができるようになる。		○	◎	○	
英語 II	英語の長文エッセイを通して、読解力向上をめざすことを目標とする。平易な英語で書かれた長文が収録されたテキストを用い、授業はテキスト読解を中心に進める。文法や構文把握など、英語1で学んだ内容をいかしつつ、それぞれの授業においては、英文の構造を理解することで、速読も含めた読解力向上を図る。また、ヒヤリングによる問題練習もより高度な内容を扱い、内容に則して聞き取る力をつけることも目指す。	1. 英語を文法に即して構造的に読み解くことができる。 2. 英語の長文を速やかに意味をとらえる速読ができる。 3. ヒヤリングにより長文全体の意味を把握できる。		○	◎	○	
英語 III	日常生活でのフォーマルな場面とカジュアルな場面における英語を理解し、コミュニケーションを取れるようにする。また、異文化の違いの理解を深める。	1. 効果的に口頭で患者とコミュニケーションするために英語を使用することができる。 2. 話す英語を理解し、その知識を使用して適切な応答ができる。 3. 簡単な患者のカルテを読み、その知識を使用して、行動の指針を患者に助言することができる。 4. 地球規模の健康問題を理解し、それらの問題について意見を表明することができる。	○	◎		○	
英語 IV	日常生活のコミュニケーションを理解したうえで、プレゼンテーションやディスカッションのような場でも英語を正しく使えるように導く。よりプロフェッショナルなコミュニケーション能力を身につける。	話す・書く・読むの全てにおいての英語能力を高め、これまで学修した英語を用いて自己の情報や状況を伝えられるようにする。	○	◎		○	
医療英語 I	医療の現場についての英文を通して、英文読解力の向上を図ると共に、医学の専門用語の習得を図る。医療の現場でのエピソードを取り上げたテキスト読解を中心とし、英語の文法等基本事項を確認しつつ、読解を進める。特に毎回の授業で長文読解に取り組むことで、全体の内容をすばやく把握すると同時に、正確に内容を理解できるよう、精読を行う。特に医療英語1では、医療単語に数多くふれることで、医療英語分野への導入を図る。	1.医療英語の基本的な語彙を身につける。 2.医療の現場での英語によるコミュニケーション力を身につける。 3.医療に関わる専門用語も含む英文を理解できるようになる。			◎	○	
医療英語 II	医療英語1での学習をさらに発展させた内容であり、医療の現場についての英文を通して、看護医療の専門用語により親しむとともに、英文読解力の向上を図る。医療の現場でのエピソードを取り上げたテキストの正確な読解をはかる中で、医療の専門用語を使いこなせるようになることを視野に入れる。またヒヤリングでの内容把握にも慣れると共に、内容についての自分の意見もまとめる。	1. 医療英語の語彙力を身につけ、より専門的な単語も英語で理解できる。 2. 医療現場で使われるコミュニケーションをより広い範囲で使いこなすことができる。 3. 医療英語に関する長文を読みこなすことができる。		○	◎	○	
中国事情と言語	中国語の基本文法、基礎会話を勉強する。語学の勉強は、コミュニケーション能力、及び自己開発につながり、いろんな面で勉強意欲を高める効果がある。漢字圏における日中文化の源流を考える上で、中国語の習得は大きな意義があり、異文化との出会いにもなる。	1.中国語で簡単な日常会話ができる。 2.さほど難しい中国語の文章を辞書を用いて読解ができる。 3.中国の文化に関心をよせることができる。		○	◎		
韓国事情と言語	韓国語の基本的な構造を理解し、基本的な日常会話ができるように学習しながら、韓国の社会、歴史、経済、文化等にも関心を持って視野を他国まで広げ、異文化コミュニケーション能力を養うことが目的である。	1.学修した韓国語の文書を読んでその意味を日本語で書くことができる 2.簡単な会話をし、それを文章として作成することができる。 3.韓国と日本の現状における共通点と異なる点を理解し、簡単に示すことができる。		○	◎	○	
ロシア事情と言語	ロシア語会話の授業は、日常会話や文化を話題としたロシア語の日常会話ができ、さほど難しいロシア語の文章を辞書を用いて読めるようにすることを目標とする。授業中はできるだけロシア語を使用して、学生達がロシア語に自然に慣れるようにする。	1.ロシア語で簡単な日常会話ができる。 2.さほど難しいロシア語の文章を辞書を用いて読解ができる。 3.ロシアの文化に関心をよせることができる。		○	◎	○	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【コモンベシックス】[情報処理]				○	◎	○	
情報処理Ⅰ(情報リテラシー)	ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトを使ってレポートを書くことやセキュリティ・情報モラルなどなど大学生として必要な知識やスキルを身につける。	スキル習得目標は下記の3点である。 1. エクセルを使ってデータの集計やグラフ作成ができる。 2. 数値データを踏まえ、ワードを使ってレポートにまとめることができる。 3. パワーポイントを用いて発表資料の作成ができる。 また、セキュリティ・情報モラルなどに関する知識を習得し、自分や他者のパソコンをさまざまな脅威から守ることができる。		○	◎	○	
情報処理Ⅱ(実務の活用法)	実務的問題を使用して、大学生として情報を分析・活用するために必要である表計算を使いこなすスキルを身につける。	エクセルの機能を深く知り、活用できる。 1. 論理関数、数学関数、検索関数、文字列操作関数、日付・時刻関数、データベース関数などを組み合わせて実用的な処理が実現できる。 2. ピボットテーブルを用いたクロス集計により、レポート作成に役立つようなデータ分析ができる。 3. 複雑なグラフ表現を駆使し、レポート作成などに役立てることができる。		○	◎	○	○
情報処理Ⅲ(Excelの応用)	実務に応用できる実践的なコンピュータの利用方法について学ぶ。社会に出る前に身につけておきたいパソコンの知識や技能を、実践的例題を通じて学ぶ。	問題解決のツールとしてパソコンを用いて問題解決ができる。 1. 現実の問題を数値モデル化することができる。 2. エクセルを使って数値モデルの解を得ることができる。 3. 解を評価し、改善案を作ることができる。		○	◎	○	
調査と統計	この授業では、アンケート調査の手順、調査票の作成、データの種類の集計、データ分析・統計処理について学ぶ。 アンケート調査とデータ分析に必要な基礎知識を習得し、自らがアンケート調査をおこなうときに、どのような方法や手順ですすめていくかの指針を得ることを目的とする。	1. アンケート調査票の作成並びにアンケート結果の集計ができる。 2. 統計学の基本的な考え方を理解した上で、データに対して適切な統計的手法を適用し、結果を解釈できる。		○	◎	○	
【人間探究科目】[自己の探究]				◎	○	○	○
探究の基礎	前学期はテキストを用い、ゼミナール形式の参加型の学習を通して、情報収集、分析・ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成など、大学での学びの基礎を実践的に身につけるとともに、自らの問題意識に立脚した課題を発見し、課題探究のプロセスに触れる。後学期は、前学期で学習した内容に加え、看護の専門的内容も加味しながら、グループワークで様々なものの見方や考え方に触れ、価値観の多様性を理解すると共に、協働する際の他者への働きかけや調整能力を身につける。そして、その過程において自己の発見および自己創造に向けた自らの課題を見出す。	1. 協調性や自律性を育む手掛かりを得るとともに大学での学習イメージを確立する。 2. 課題探究のプロセスを理解し、行動化できる。 3. グループワークの意義を理解して自己の役割を果たすことができる。 4. 自己の発見および自己創造に向けた自らの課題を見出す		◎	○		
人間と存在	哲学は、「なぜ」という疑問をもって、あらゆることの本質を根本に遡って問う学問である。「世界」はどんな性質をもっているのか？ 社会システムの中核にある「正義」や「自由」といった概念をどう捉えるのか？ 「人間」とは何で、「私」とは誰なのか？ 代表的な哲学の諸問題について一なぜそう考えるのかも含めて一受講生と一緒に考える。	1. 常識を含めたあらゆることを批判的に懐疑の対象とできる。 2. 知的好奇心をもって多様な考え方を知り、多元的に思考できる。 3. 知識を活用し、根拠を提示しつつ、論理的・整合的に自身の主張を展開できる。		◎	○	○	○
人間と心理	人は皆、心をもっている。その心で何かを感じ、考えをめぐらし、他者と対峙する。心の有様は人それぞれだが、そこには人間の心のもつ一般的特徴が存在する。人間と心理では、心の法則を解き明かし、人間理解をさらに深いものとしていく。また、心理テストやメンタルケアの方法など体験的な学びの時間も設けることで、心理学をより身近なものと感じてもらいたいと考えている。	1. 心の働き(例えば知覚・思考・感情など)について、その基本的な内容を説明できる。 2. 心の仕組みを理解することで、他者との関わりがより円滑にできるようになる。 3. ストレスフルな社会を生き抜くためのメンタルケアの具体的な方法について知り実践できる。		◎	○	○	
人間と歴史	本講義では、歴史研究とはどのような史料を対象として進めるかということから糸口として、歴史とは何か、また歴史を学ぶことの意義を考える。内容は、近年編集が進められている青森県の歴史を中心とする。青森の歴史には、アイヌ民族との関係や戊辰戦争での立ち位置など、きわめて興味深い事柄が含まれるが、政治だけではなく、文化や、あるいは女性史など従来マイノリティとして捉えられてきた事柄にも目を向ける。高校までの日本史にとらわれず、地域史の視点から日本の歴史を捉え、最終的に人間と歴史の関係を考えていきたい。	1. 「青森県の近代」とは何か、その諸相を理解できる 2. 「歴史とは何か」について自分なりの考えを持てる 3. 「資料を読む」方法およびその意義を理解できる		◎	○		○

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>	
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。	
人間と教育	我が国は教育制度が確立された国であり、受講者のすべてが既に12年間教育を受けてきた。そのため、誰もが教育についてはそれなりの考えを持っていると思われる。この授業では、これまでの学びを基礎として、我が国の学制(6・3・3・4制)成立の経過とその背景にある理念、身近な市町村による教育への取り組みなどを主なテーマとして学ぶことを通じて、人間として生きていくため生涯にわたる学習が必要であることを理解し、それを実践しようとする態度を身に付けることを目的とする。	1. 我が国における学制の変遷とそれが発達段階と深く関連していることについて説明できる。 2. 身近な市町村における教育への取り組みについて、具体例をあげるなどしながら説明できる。 3. 生きていくために学び続けることの大切さを理解し、それを実践しようと計画するなどの姿勢を示すことができる。	◎	○				
人間と宗教	科学技術の進歩した現代においても、なお宗教が社会に強い影響力を持ち続けているのは、科学では答えられない人生の問題についての深い叡智が、そこに培われているからである。本授業では、生死・罪などをキーワードに、そうした宗教の叡智に学びつつ、豊かな人間性を醸成することを目的とする。	1. 科学的思考とは何であるかを理解した上で、それとは異なる「宗教」の持つ意味を理解し、説明することができる。 2. 仏教・キリスト教の基本的な教義と歴史について理解し説明することができる。 3. 自分にとって「宗教」がどのような意味を持つのか、自分自身の経験もふまえつつ、主体的に考え論じることができる。	◎	○	○			
人間と芸術	芸術に関する視覚教材等を通して、人間と芸術の関わりについての理解を深める。	1. 様々な芸術分野の人や作品を通して、芸術に対する視野を広げる事ができる。 2. 芸術に興味を持ち、積極的に取り入れる態度を身につける事ができる。 3. 課題について自分の考えを述べる事ができる。	◎	○				
人間と文学	主題は、「私と文学」である。読書を行う理由は人によってさまざまであろうが、その理由は通常、きわめて個人的なものであろう。そこで、この授業では「文学」を「自分学」と位置づける。通常問われるような「作者の言わんとするところ」はさほど重要ではなく、「なぜ、自分は『作者はこのように言おうとしている』と気づくのか」が重要だと考える。 目的は、「自分自身の発見」である。読書が単なる受身の行為でなく、読者の自発的な「創造行為」であることに気づいてもらいたい。作品を読んで見えてくるものはすべて、自分自身の中にあるものである。だから、同じ本を読んでも読者の中に形作られる世界は読んだ人によってすべて違ったものとなる。この創造行為は同時に、「そのように作品をとらえる“自分”を発見することでもある。	1. 作家・作品の文章表現、日本語感覚に対する自分の理解を、自分の言葉で表現できる。 2. 作品に描かれる時代だけでなく、現代に受け継がれる日本人の感性や教養への理解を、自分の言葉で表現できる。 3. 読書に喜びを見出し、継続し、礼儀をわきまえ、他者に伝承することができる。	◎	○				
人間と健康	近年の日本はコンピューターを用いた産業の機械化や交通機関の整備、家電製品の普及などで日常身体活動量が激減した。日本は世界一の長寿国と言われているが、我々の生活している青森県は毎年、短命県のワースト1位である。そして、国民が医療機関で傷病のため支払う費用を国民医療費というが、近年は増加の一途をたどり毎年1兆円ペースで増加続けており国民経済の大きな圧迫要因となっている。主な医療費の内訳は心疾患・脳血管疾患・悪性新生物などの生活習慣に関連するものが多い。そこで本講義では自らの健康をコントロールし改善するための過程を学び「健康教養」を身に付けるために具体的な事例を挙げ講義を進めます。	1. 青森県の衛生の主要指数を理解することができる。 2. 高血圧症・糖尿病・脂質異常症・心疾患・脳血管疾患・悪性新生物・骨粗鬆症などの生活習慣病と呼ばれるのはなぜであるのか。これらの疾患の判定基準値およびライフスタイルとの関係を理解することができる。 3. 健康づくりのための運動指針を作成することができる。 4. 的確な身体組成値を評価することができる。 5. 加齢に伴う身体組成値の変化を理解することができる。 6. 様々な環境下で安全に運動を実施することができる知識を理解する。 7. 運動・栄養・休養のプランを作成することができる。 8. どのような生活をすればストレスに強くなれるかを理解することができる。			○	○	○	◎
人間と倫理	古代から現代までの、倫理観の変遷と倫理についての考え方を教授し、学生個人の思考力を拡大し、今後において自分で考えることができるための精神的成長の促進を目的とする。	考え方と行動の密接な関係を知る。新しい思考方法を知る。自分で考え、発言し、また質問する能力と気力が備わるようにする。これらを通して下記を到達目標とする。 1. 考え方の多様性を知ることにより、相手への理解を深め、そこから個人を尊重する態度を身につけている。 2. 授業で得た知識や思考方法を起点とし、自分なりに知識と思考を深め、人間理解に役立てる能力を身につけている。 3. 知識を一方でのみ理解するのではなく、多様に考え応用できる柔軟性を身につけている。 4. 考え方を成長させることにより、判断能力を高め続けられる。 5. 社会と人間について柔軟な総合理解の力を身につけ、そこから常にベターな対処法を選択できる能力を身につける。	○	○	○	◎		

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
対人コミュニケーションⅠ	この授業では、講義とグループ活動等を通して、コミュニケーション学に関する諸概念・理論について学びます。この授業の目標は、(1)これまでに経験してきた人間関係を、コミュニケーション学の視点から見つめ直し、自己理解・他者理解を深めます。(2)主体的に前に一歩踏み出し、他者と積極的に対峙する態度と志向性の育成を目指します。(3)他者の人生をより豊かにするための対人コミュニケーションのあり方について学びます。	1. コミュニケーション学に関する諸概念・理論について、その意味や有用性を説明できるようになる 2. 上記1.で学んだコミュニケーション学の知識を活用し、自己理解・他者理解を深める 3. 他者と豊かな人間関係が構築できるコミュニケーションのあり方について、自分自身の考えをもてるようになる	○		○		◎
対人コミュニケーションⅡ	この授業では、講義とグループ活動等を通して、コミュニケーション学に関する諸概念・理論について学びます。この授業の目標は、(1)医療従事者として想定される状況において、適切に他者と対話ができるようになることを目指します(2)困難な状況においても、恐れずに他者と積極的に対峙し、協働し、適切に問題を解決することができる態度を育成します。	(1) コミュニケーション学の諸概念・理論をもとに、想定される具体的な状況において、適切に他者と対峙することができる (2) 他者との衝突や自己との葛藤など、困難な状況においても、他者と対峙し、問題を解決するための具体的な行動ができる	○		○		◎
人間関係とリーダーシップ	本講座は、2つの人間関係、一つは看護を担う医療チームという組織の人間関係、もう一つは個々の患者と接する人間関係、の舞台を念頭に置いている。これらの人間関係には縦と横の関係があるが、その関係で無理やり“人を動かす”ことには限界があり、“その気にさせる”リーダーシップが求められている。本講座の狙いは、看護職として生きる場である組織を含む組織一般における人間関係を取り上げ、その構造と過程を理解し、そこで求められるリーダーシップに必要な知識と技能を明らかにすることを通して、何が問われるのか、をともに考えることにある。	組織における縦の人間関係と横の人間関係の性質を捉え、そこにおけるリーダーシップ機能に必要な技能を理解できるとともに、その遂行のために何が問われるのか、を考えることができる。 1. 組織における一員としての自らの役割とリーダーシップ機能の理解を通して、とくに看護に求められる“寄り添う”ことの意味を考えることができる。 2. 組織における縦と横の人間関係を学び、“人を動かす”ための基礎を理解できる。 3. 人間関係における“人を動かす”コミュニケーションの基礎技能を学ぶとともに、自分なりのコミュニケーションのあり方を理解できる。	◎	○	○	○	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【人間探究科目】[社会の探究]			◎		○		○
暮らしと地域	本講義は、看護の対象となる人間と社会への理解を深め、看護を通じて人々と社会に貢献できるための基礎的な知識と実践に向かう姿勢を育むことを目指すものである。具体的には、人々の日々の「暮らし」と人々の「暮らし」が繰り広げられる「地域」について、多様な視点からその現状と問題点および問題解決の方向性について、具体例を交えながら講義し、ともに考えて行く。多様な視点とは社会学、環境学、都市・地域政策、経済・経営学や地域活動などである。また講義の中で学生諸君に問いかけをしたり、レポート作成を課したり、ディスカッションをしたりしながら、自分の問題として考える訓練も織り込みながら進める。	看護の対象となる社会を多面的、自主的に考えるようになることを目標とする。具体的には、次の2つの段階毎に到達目標を設定する。 (1) 人々の暮らしや地域社会のさまざまな側面を、社会学、環境学、都市・地域政策、経済・経営学や地域活動など多様な視点から捉えることができる。 (2) 人々の暮らしや地域社会の問題を理解し、問題解決のあり方を自分の言葉で述べるができる。	◎				
グローバル社会と文化	現代はグローバル化が進む一方、地域社会のアイデンティティが問われる時代である。本講義では、一つの地域社会での文化の在り方の背景にどのような国際交流(グローバル化)が関わったか、津軽地方を中心として取り上げる。津軽は近代国家成立過程において、国内でも独特の西洋文化受容を展開した。津軽の幕末から近代にかけて、津軽の私立学校東奥義塾で展開した西洋文化の文化形成過程を学ぶことで、近代初期地方レベルでの日米交流を具体的に理解するとともに、グローバル化と地域社会の関係及び地域を研究することの意義を理解する。	1. 津軽地方で展開した国際化についての歴史的背景を理解する。 2. 「地域を研究する」ことの意義を理解する			◎		
暮らしと経済	個人の生活を経済の視点で学ぶことはこれまで余りなかった。しかし、生まれてから死ぬまで、また死んでからもある程度のお金がかかる。子育て、教育、老後、それぞれのライフステージに応じて、計画的なお金の収支が求められる。これを支える財政も赤字国債などで借金体質が続いている。本講義は経済、金融の仕組みを学び、金融リテラシーを高めつつ、生活者の視点で日々の暮らしを見直し、持続可能な社会のための生活のあり方を考えることを目指したい。	1. 人口減少時代の社会の変容、特に社会保障制度(医療保険、年金制度など)について述べるができる。 2. 金融経済の仕組みを応用して、ライフプランの資金ニーズに対応することができる。 3. 金利、為替、税制を正しく解釈することができる。	◎				○
縄文と現代	世界に誇る三内丸山遺跡や亀ヶ岡遺跡等の縄文文化を学び、それが現代の私達の生活にどのように引き継がれているかを知り、将来あるべき人間像や社会像について考えることを目的とする。 また、縄文人の自然との共生のあり方、技術開発、遠隔地との交易のあり方、食糧獲得の方法、家族や社会のあり方、死者への対応のあり方等を学ぶことによって、人間とは何か、社会とは何かを考えることを目的とする。	1. 縄文時代に開発された技術や文化の内容を知ることによって将来あるべき人間像や社会像について説明することができる。 2. 縄文人がいかに自然を大切に、自然との共生を行ったかを学びこれからの社会が自然とどのように共生すべきかを説明することができる。 3. 現代の日本人は縄文人を直接の祖先に持ちながらも、その後の弥生・古墳時代の大陸や朝鮮半島からの移住者との混血によって形成されたことと、近隣諸国との共存共栄の必要性や人類愛の大切さを関係づけることができる。	◎		○		
暮らしと法律	本講義では、私たちの日常生活の中から法律上重要な諸課題を取り上げる。とりわけ、看護師の日常業務の中で直面する法的問題、看護師の業務内容とその法的責任や職場の労働問題などについて検討し、法学に関する関心を持てるよう配慮する。	1. 日常生活とかかわりの深い法的問題について例を挙げて説明できる。 2. 看護師に必要とされる法的責任について、人権の尊重・擁護という観点から論ずることができる。	◎		○		
社会と福祉	本講義では、福祉の基礎的な知識や歴史、制度について理解するとともに、私たちが暮らす社会と福祉との関係について、最新の動向も交えながら学んでいく。	1. 福祉の歴史や制度について解釈することができる。 2. 福祉を必要とする人々の生活や社会背景について解釈することができる。 3. 現代社会の中で福祉が果たす役割とその意義について解釈することができる。	◎				○
現代社会の諸相	人々の活動は地域を超え、国境を超え、地球全体に広がっている。最近の異常気象は地球温暖化が遠因だと云われ、円高の急進で空洞化した地域経済はいまだに苦しんでいる。グローバル化した経済社会では、地球的な視点からの判断や発想が不可欠である。地球市民となって現代社会の実像を眺めよう。 この講義では、環境問題、地域経済、スポーツ活動、労働環境、コミュニケーション言語、政治、紛争、情報通信などの様々な切り口から、現代社会の変容していく姿を捉え、今後の展開などについて学習していく。	1. 人間が暮らす社会は様々な文化や多様な社会的価値を合わせ持つ有機的な生活の場であり、絶えず変化している実態の実例を挙げることができる。 2. 多様な社会現象に関する知識を学習し、身近な例と結び付けて説明できる。 3. 多様な社会現象に関して自らの意見を述べるができる。	◎	○	○		

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【人間探究科目】【自然の探究】			○		◎	○	
自然の生態系	私たちが取り巻く自然環境と、そこに生きる生物たちを、特に水圏に重点をおいて解説する。各環境中の生物の多様性や、これら生物の生活のあり方とりわけ捕食・被食関係が与える重大な意味、また彼らの生活を脅かす様々な問題など、さらには日本人がこれら生物に対して歴史的にどのように関わってきたのか、以上のような内容を通して「生物観」、「動物観」を伝える。	比較的身近な自然の中に生息する多様な生物たちに関して、 1. その生活のあり方について 2. 人間との関わり方について 3. 現在生じている諸問題について 理解し大まかに説明できるようになる。	○		◎		
自然と生物	専門科目へのスムーズな導入を図ることを目的とし、自然と生物に関する入門的内容の授業を行う。細胞生物学、分子生物学、生物分類学、微生物学、進化学などについて、初学者が興味を持ち、意欲的に学習に取り組めるよう、ビジュアルコンテンツ(画像、イラスト、動画)を豊富に活用して授業を進める。	1.自然と生物(具体的には遺伝子、ゲノム、生物多様性、生命進化など)について、その基礎知識を幅広く学び、一定の理解を達成する。 2.こうした目標を達成することにより、複雑化した現代社会を生きる上で必須の「基礎的素養」(科学リテラシー)を身につける。 3.「持続性ある社会の発展」や「地球環境の保全」といった大きな課題に関しても、学生個々が自分なりの明確な「展望」を持てるようになる	○		◎		
自然と化学	専門科目で必要とされる化学の基礎的知識の定着を図ることを目的とし、日常生活や健康に関連したテーマを科学的な観点から解説する。初学者が興味をもてるように授業を進める。	1. 測定のことを理解し、数値を正しく扱って計算できる。 2. 物質を分類し、その性質や変化を説明できる。 3. 原子の構成粒子を理解し、原子番号や質量数との関係を説明でき、原子量を計算できる。 4. イオン化合物と共有結合化合物の性質、命名法、化学式を説明できる。 5. 化学で用いられる物質の量の単位を理解し、モルと質量の換算に利用できる。 6. 正しい化学反応式の書き方を理解し、化学反応式を完成させることができる。 7. 溶液の性質を理解し、水溶液中の化学反応における反応物や生成物の量(濃度)を計算できる。 8. 酸・塩基の性質やpHの定義を理解し、試料に含まれる酸や塩基の量を計算できる。 9. 酸化・還元とはどのような変化であるか説明できる。 10.放射線の種類と性質を理解し、放射線の生体への影響を説明できる。	○		◎	○	
生命の科学	生命科学の進歩が産業や医療に与える影響を学ぶとともに生や死に対する倫理的思考を深めることを目的とする。	1. 分子生物学が先端医療(iPS細胞)に与えてきた影響を理解し、自らの考えを適切なキーワードを用いて述べるができる。 2. 生命がどのようにつくられ、生命がどのように守られているのかを倫理的側面から適切なキーワードを用いて述べるができる。 3. 身近な生命現象について理解し、事例を挙げて説明することができる。	◎		○		
自然とエネルギー	私たちの豊かな生活は大量のエネルギー消費によって支えられている。しかし、石油、石炭、天然ガスなどの化石エネルギー資源の枯渇問題や環境問題の深刻化と、福島原発事故等を背景に、世界的に太陽光や風力等の自然エネルギーが注目されている。また、エネルギーを利用する私たちの健康は、化石燃料消費による環境汚染や放射線量などと深い関係がある。資源の少ない日本にとって、将来有用なエネルギー源とは何かについて学び、併せて環境と健康に益する安全・安心なエネルギー社会構築の重要性について理解を深めることを目的とする	1. 人間と自然の共生に関する諸問題を、エネルギー消費の視点から認識できる。 2. 授業で得た基礎知識を鑑み、環境・エネルギー・健康などについて広い視野を持ち、現代社会のあり方やライフスタイルを見直す必要性を認識できる。	◎	○	○	○	
防災と危機管理	本国においては、地震・津波災害に代表される天災がいつどこで発生するとも限らず、地域社会では、こうした様々な不測事態に対応するための適切な計画と訓練を通じた「危機管理」のノウハウを必要としている。本講義では、危機的状況をコントロールし、地域社会の安全・安心を守るための具体的な対応策を含めた危機管理についての理解を目的とする。	地震・津波災害を代表とするいわゆる不測事態(危機)を未然に防止する能力、あるいは危機的状況をコントロールできる能力を身に付けるための「危機管理」の重要性とノウハウについての理解を目的とする。	○		◎	○	○

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【専門科目】(健康科学と看護実践)(人間の心身の理解)			○		◎	○	
解剖生理学Ⅰ(人体の基本構造と働き)	解剖生理学の授業では、各種臓器の部位や名称を正しく理解しつつ、それらの正常な働きを学ぶことで、人体の異常を理解し、看護援助を行うことに資することを目的とする。特に解剖生理学Ⅰでは、生命の働き、生体の発生から死に至る経過、個体の防御機構、代謝や内分泌による生体の調節機構を理解する。	1. 生命の恒常性(ホメオスタシス)仕組み、血液、免疫、栄養素の代謝、ホルモン分泌、生殖と老化、に関連する用語を正確に述べることができる。 2. 1. の関係を系統だてて解説できる。	○		◎		
解剖生理学Ⅱ(臓器の構造と機能)	人体の構造、機能を理解することは医療の基礎であることを正しく認識し、健康課題の分析、看護・援助技術を学ぶための「健康科学と看護実践」の基本的構成要素であることを理解する。解剖生理学Ⅱで循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造と機能を習得する。	1.. 人体の構造と生理作用(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系)を説明出来る。 2. 生涯にわたる学習・研鑽を続けるための基礎的知識・能力を習得している。 □	○	○	◎	○	
解剖生理学Ⅲ(人体活動を調整する組織の構造と機能)	人体の構造、機能を理解することは医療の基礎であることを正しく認識し、健康課題の分析、看護・援助技術を学ぶための「健康科学と看護実践」の基本的構成要素であることを理解する。解剖生理学Ⅲでは運動系、神経系、感覚系の構造と機能を習得する。	1.. 人体の構造と生理作用(運動系、神経系、感覚系)を説明出来る。 2. 生涯にわたる学習・研鑽を続けるための基礎的知識・能力を習得している。	○	○	◎	○	
病理病態学	「病理病態学」という学問領域は、(1) 病気(疾病)の原因を追究して、(2) 病気に伴い患者の身体の中で、どのような変化が生じているのかを明らかにして、疾病の成り立ちを理解する分野である。さらにこれらをもとに、(3) 患者の病気を診断する(病理診断)、(4) 病気の予防に貢献する、という医療分野の役目も担っている。このような病理病態学の本質と役割を理解するための授業を行う。	代謝障害・循環障害・炎症・免疫異常・腫瘍などの総論に加えて、循環器・呼吸器・造血器・消化器・泌尿生殖器・運動器・神経系などの各臓器における主要な疾病(疾患)の成り立ちを理解し、これらを習得することを目標とする。		○	◎		○
免疫と感染	免疫機構と病原微生物による感染症の機序とその関係を教授する。	1. 生体防御機構のひとつである免疫の仕組みと役割、そしてその異常によって起こる疾患が理解できるようになる。 2. 病原微生物の感染機序、それによる疾患の発症機序、そして免疫によるそれらに対する防御の仕組み、それを助ける感染予防法、薬物治療法の原理を理解できるようになる。	○	○	◎		
発達心理学	発達心理学は人間がその一生涯において、どのようなプロセスをたどり成長・変化していくのか、その概観を理解するための学問である。10回の授業のうち、初めの部分では、発達心理学に多大な影響を与えた著名な研究者たちを紹介し、それぞれの考え方についてしっかりと学習する。その後、人生の各ライフステージ(すなわち、胎生期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期)について発達の特徴と抱える課題について学んでいく。	1. 人間の発達段階について、著名な理論の基本的内容を説明できる。 2. 各ライフステージの心身の特徴を説明できる。 3. ライフステージごとの発達課題を習得し、それを分かりやすく説明できる。	○		○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【専門科目】(健康科学と看護実践)(健康障害と回復の理解)			○		◎	○	
疾病治療論Ⅰ	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、虚血性心疾患、各臓器の悪性腫瘍の病態を学び、患者の状態を正確に把握する能力を身に付ける。	1. 疾患(循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、虚血性心疾患、各臓器の悪性腫瘍)を理解し、正しく説明できる。 2. 患者の状態を正しく理解し、基本的対処を的確に実施できる基本的知識を示すことができる。 3. 健康指導実践のための基本的知識を習得している		○	○	◎	○
疾病治療論Ⅱ	血液疾患、膠原病・アレルギー疾患、感染症、皮膚疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患の病態を学び、患者の状態を正確に把握する能力を身に付ける。	1. 疾患(血液疾患、膠原病・アレルギー疾患、感染症、皮膚疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患)を理解し、正しく説明できる。 2. 患者の状態を正しく理解し、基本的対処を的確に実施できる基本的知識を示すことができる。 3. 健康指導実践のための基本的知識を習得している。		○	○	◎	○
疾病治療論Ⅲ	脳・神経疾患、運動器疾患、感覚器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患の病態を学び、患者の状態を正確に把握する能力を身に付ける。	1. 疾患(脳・神経疾患、運動器疾患、感覚器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患)を理解し、正しく説明できる。 2. 患者の状態を正しく理解し、基本的対処を的確に実施できる基本的知識を示すことができる。 3. 健康指導実践のための基本的知識を習得している。		○	○	◎	○
母性疾病治療論	妊娠・分娩・産褥・新生児期における異常についての病因、病態生理、症候、治療を理解することを目的とする。妊娠悪阻、流・早産、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、ハイリスク妊娠、前期破水、胎児機能不全、帝王切開術、産科出血、会陰裂傷、肺塞栓症、子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、早産児、低出生体重児、先天異常等の病態生理、症候、治療について学ぶ。	1. 周産期・新生児期に起こりうる疾患の病態生理・治療等について理解し、述べることができる。 2. 母性看護の看護者として必要な援助を説明できる。	○		◎	○	
小児疾病治療論	小児における主要な疾患について教授する。	1. 疾病の基礎的知識を習得できている。 2. 小児特有の病態生理を正しく解釈できる。 3. 診察、診断、加療の流れに関して正しく説明できる。	○		◎	○	
精神疾病治療論	精神疾患がありふれた病気である(例えば統合失調症 0.8%、躁うつ病 0.5%の罹病率)ことを理解し、看護のあらゆるシーンで全人的支援を可能とする基本的知識と姿勢を身につける。	1. 患者の病状、心理などを理解し、的確な評価が出来る。 2. その評価に基づいて支援を行なうために必要な知識を説明できる。 3. 必要な支援をチームで行なう姿勢を示すことができる。	◎		○	○	○
リハビリテーション論	リハビリテーション概念を中心とした総論、各種リハビリテーションの知識を深める各論から、広く深くリハビリテーションの内容について学習する。 医療的リハビリテーションに加え、介護保険下、および様々な場面で行われるリハビリテーションを理解し、それを応用・実践できる知識、物の考え方を身につける。	1. リハビリテーションの本来の意味、役割を説明できる。 2. 看護の立場からリハビリテーションの意義や役割・責任を考え、実践のための基礎的知識を説明できる。 3. 多職種理解により、リハビリテーション実践のため、多職種連携・協働を説明できる。 4. 様々な対象や場面に応じたリハビリテーションに必要な事項について説明できる。	○		◎	○	○
臨床栄養学	実験や地域の調査によって得られた栄養学の基礎的データを、実際に人を対象として用い、食物を通して人の健康に直接寄与する学問が臨床栄養学である。臨床栄養学は疾病の予防や改善に貢献する学問であり、今後ますますその重要性は増すものと思われる。臨床の現場においてはその役割は、管理栄養士、及び栄養士とかわれがちであるが、直接患者と接する時間ももっとも長い看護職においても学ぶ意義は高い。 本授業は、患者に対して食事管理の必要性と一般的な方法を根拠を持って説明することができることを目的としている。そこで、生活習慣と疾病や、腎臓病、肝臓病など体内における各臓器の疾患と、栄養の関連について重点的に学ぶ。さらに実際の看護で必要と思われる、食品のもつ栄養の特徴などについても基本的内容ではあるが学んでいく。また近年国民の高齢化が急速に進んでいる。それに伴い摂食・嚥下障害などが原因で起こる低栄養の症例増加も問題となっている。そこで摂食・嚥下障害のある高齢者の栄養管理についても重点的に学ぶ。	1. 臨床栄養学の意義を自分の言葉で説明できる。 2. 食欲と摂食障害のメカニズムを自分の言葉で説明できる。 3. 疾患別の食事指針を、病態・生理のメカニズムを根拠にして自分の言葉で説明できる。			◎	○	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
薬理と薬剤	医薬品は諸刃の剣ともいわれ、使用方法如何によっては毒にもなります。しかし正しい使い方をすれば多くの疾患の治療に役立つ。薬物治療効果を最大限に発揮するためには、医師・薬剤師・看護師の三者がチーム医療のもとに連携をとらなければならない。特に、看護師は患者と一番向き合う職種であり、治療効果を身近に感じることができ、医師と患者との橋渡しの役割を担うことも少なくない。そのためにも、科学的根拠に基づいた最低限の薬の知識を習得することは、チーム医療の一員として必須である。しかし、医薬品は極めて広範囲にわたるため、その全てを理解することは薬理学に対するイメージの中で「難しそう」「覚える薬が多い」などの苦手意識を内包してしまう。そこで本講では、身体部位別の疾患に対する医薬品の有効性や危険性を学び、薬物治療へ参画できるようになるための素地を身につけることである。	この授業は、看護師資格取得のための必修科目であり、資格を目指す学生にとっては、薬物治療とはなにか、薬物治療のメリット(主作用)とデメリット(有害作用)を理解するための授業として具体的な目標を以下に挙げる。 1. 薬理学、薬物を取り巻く法体系、生体内運命の概念に基づき、代表的疾患での治療薬を説明できる。 2. 薬が効くということはどういうことか?を念頭に、薬物の作用する場所は?それがどのように効果を現すか?を代表的治療薬について説明できる。 3. 各種疾患、病態に用いられる薬物における代表的な副作用(有害作用)についてその前駆症状を理解し、主な対策を説明できる。	○		◎	○	
【専門科目】(健康科学と看護実践)(健康支援と社会制度)			○		◎		○
公衆衛生学	健康の意義を正しく理解し、国民の健康の維持・増進を図るために必要な知識を習得する。公衆衛生の意義、環境と健康、健康の指標、生活習慣病の現状と対策、主要疾患の現状と予防対策、保健・医療・福祉・介護の制度、健康教育等、人間の健康にかかわる課題を理解し、実践する能力を身に付ける。	1. 健康とは何か、生命倫理の大切さを説明できる。 2. 健康指標、環境保全、各種の制度を正しく説明できる。 3. 疾病の現状と疾病予防の方策を説明できる。 4. 公衆衛生活動の実践に必要な基本的能力を身に付けている。	○	○	◎		○
社会保障論	個人や集団の求めに応じ、社会保障制度に関する情報を的確に提供してその活用を支えるため、必要な知識の習得を目指す。 授業では、最初に社会保障制度の全体像を学ぶ。その上で社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生及び医療など、諸制度を体系別に学習する。併せて社会保障制度における看護師・保健師の役割についても考察し、理解を深める。	1. 社会保障制度の全体像について、社会背景との関連を交えて他者に説明することができる。 2. 個別の制度(各論)を正確に理解し、その内容を整理して他者に説明することができる。 3. 社会保障制度における看護師・保健師の役割を、考察に基づいて説明することができる。	○		○	○	◎
ヘルスプロモーション論	ヘルスプロモーションの構想を通じて、健康の決定要因や健康支援の在り方を理解し、地域全体の健康状況を把握した看護活動ができるようになるための基礎を学ぶことを目的とする。	1.ヘルスプロモーションとは何か言える。 2.ヘルスプロモーションの構想や目標について理解できる。 3.ヘルスプロモーションの実際をとおして看護との関連について考察できる。				○	◎
看護と法律	社会における看護職者の民事上、刑事上、行政上の法的責任、及び保健師助産師看護師法をはじめとする看護職者に必要な法律の基礎を理解する。	1. 看護職者の民事上・刑事上・行政上の責任を述べることができる。 2. 時系列に産婆規則、看護婦規則、保健婦規則、保健師助産師看護婦法の内容を挙げることができる。 3. 看護活動に必要な保健・医療・福祉に関する法律を挙げ、内容を述べることができる。	○	○	◎		
地域と生活習慣病	地域の生活習慣を知り、地域特性と疾病との関連性を理解し、生活習慣病の予防の方策を考える能力を身に付ける。	1. 地域における生活習慣病の実態を説明できる。 2. 生活習慣病予防のために何をすべきか説ける。		◎		○	○
疫学	生命倫理を基に集団の健康事象を理解する。疾病の流行状況を観察し、どのような要因が関わっているかを分析し、疾病対策をどのように計画し、実践し、評価するかを学ぶ。	1. 疾病の発生要因、発生状況を理解するための方法を説明できる。 2. 疾病制圧の方法を考える能力を習得している。	○	○	◎		○
保健統計学	生命倫理を基に、集団における健康問題を理解するため、統計資料を正しく用いる能力を習得する。健康指標の意義や、統計調査の方法の基礎を学ぶ。	1. 統計が示す社会的現象を説明できる。 2. 保健活動に役立てる能力を習得している。	○	○	◎		○
保健医療福祉行政論	保健・医療・福祉行政の理念としくみ及び制度、地方自治体での保健医療福祉行政がどのように立案・実施されているかを学び、保健医療福祉行政職の役割や責務を理解する。	1. 保健医療福祉の理念について、正しく説明することができる。 2. これからの保健医療福祉施策の方向性について社会背景との関連も交え自らの考えを述べることができる。 3. 保健医療福祉行政および財政の仕組みについて、正しく説明できる。 4. 保健医療福祉の計画と実践・評価方法についての的確に説明できる。	○		◎		○

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
医療経済学	日本の医療供給体制、医療保険制度、国民医療費等の仕組みやその特徴について、医療関係職種として求められる基礎的な知識を習得することを目的とする。また、保健分野における経済学の特徴を理解し、その応用である臨床経済学の基礎を学ぶ。	1 日本の医療供給体制の特徴を諸外国と比較して論じることができる。 2 日本の医療保険制度や国民医療費の特徴を諸外国と比較して論じることができる。 3 保健医療分野における経済学の特徴を理解し、臨床経済学の基礎である分析方法、費用と効果の種類、質調整生存年数の概念を論じることができる。		◎	○		○
【専門科目】(健康科学と看護実践)(基礎看護学)			○	○	○	◎	
看護学概論	看護学全ての導入科目である。看護学を構成する4つの概念「人間」「健康」「環境」「看護」を柱として、「看護とは・看護の対象とは・健康とは・看護職の役割とは・看護活動とは・人間の権利を尊重するための倫理等」について学ぶ。また、看護の歴史的發展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。	1.看護の概念、目的、役割を理解できる。 2.看護の対象である人間について、多角的に理解することができる。 3.看護活動の場や他専門職種との連携について理解できる。 4.看護者に求められる倫理について理解できる。 5.看護の歴史を通して、看護の変遷・発展について理解できる。 6.主要な看護理論や看護モデルを理解できる。	◎	○	○		
看護展開論	看護師に必要とされる対人関係の基本を学び看護の対象と専門的援助関係を形成する基礎的能力を身に付ける。また看護実践に必要な思考である看護過程について学ぶ	1. 専門的援助関係及びケアリングについて説明できる。 2. 対人関係の基礎となるコミュニケーションの原則を説明出来る。 3. カウンセリングの基本的技術・態度について説明できる。 4. 看護においてなぜクリティカルシンキングが必要なのか説明できる。 5. 看護を系統的に思考するプロセスである看護過程の必要性が説明できる。 6. 模擬患者を用いて、看護過程を展開することができる。	◎	○	○		
ヘルスアセスメント論	看護実践には、適切な観察力とアセスメント力が求められる。ヘルスアセスメントは、人々の健康状態に関する査定・評価を行うことを意味する。中でも身体的な症状や問題を抱える対象を観察する一連のプロセスがフィジカルイグザミネーションである。ここでは、NANDA-Iのデータベースに沿って身体を観察する方法を学び、アセスメントし、援助を適用していくプロセスを講義・演習で身につける。	1. NANDA-Iの13領域に沿って情報収集する際に必要な客観的な情報がわかる。 2. 各領域の情報を観察(フィジカル・アセスメント)する基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。 3. 観察で得た情報を解釈・分析し、身体症状を軽減・改善するための援助の種類、方法を説明できる。			◎	○	
基礎看護技術論	看護実践に必要な日常生活の援助技術と診療の補助技術について、講義と演習により身につける。看護実践を行う上で基盤となる科学的根拠と技術習得に必要な専門的知識を学び、常に対象者の安全・安楽・自立を考慮した援助を実践できる素地を養う。	1. 日常生活援助の基本技術(食事、睡眠、排泄、活動、清潔)を理解し実施できる。 2. 症状・生体機能管理の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。 3. 安楽を援助する基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。 4. 感染予防の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。 5. 呼吸・循環を整える基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。 6. 創傷管理の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。 7. 与薬の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。			◎	○	
基礎看護学実習Ⅰ	看護実践に必要な患者の生活環境への理解、看護師によるコミュニケーションや看護実践の方法を学び、専門的援助関係の基盤を創る。見学実習では患者を支える施設全体の機能や構造を見学し、患者を取り巻く生活環境を総合的に知る機会とする。シャドウイング実習では看護師と行動を共にし優れた看護実践を見学することで、コミュニケーションの方法、看護援助の実際や、看護業務の一日の流れを学ぶ。	1. 患者を取り巻く生活環境を、施設の部署との関連を通して総合的に知る 2. 看護実践を見学し、接し方を学ぶ 3. 看護師としての基本的な態度を身に付ける	○		◎		
基礎看護学実習Ⅱ	看護実践には科学的な根拠をもとに、対象者に合わせて、計画的にケアを提供することが求められる。本科目では看護を展開するプロセスを学び、日常生活援助を通して専門的援助関係の基盤を創る。病棟で実際に1名の受け持ち患者に対し看護過程を展開し、日常生活援助を実施する。実習で行った看護についてケースレポートを作成し、自己の看護観を養う。	1. 受け持ち患者を理解し看護の必要性が分かる。 2. 患者に合わせた看護計画を立案できる。 3. 日常生活援助の実施、評価ができる。 4. 看護者に必要な態度を身につけることができる。	○		○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【専門科目】(人間発達と健康支援)(母性看護学)			○		○	◎	
母性看護学概論	「女性生殖生理編」「母性看護編」から構成され、「女性生殖生理編」では、女性生殖器の構造と機能、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理等について学ぶ。それを基に「母性看護編」では、母性看護の概念、女性のライフサイクル各期の特徴や健康問題、ヘルスプロモーション等について学ぶ。	[女性生殖生理編] 1. 女性生殖器の生理について理解できる。 2. 発達過程に応じた生殖機能の健康増進および疾患の予防・治療について理解できる。 [母性看護編] 1. 母性看護の概念や特性を理解できる。 2. 母性看護の対象となる人への理解を深め、ライフサイクル各期の看護について理解できる。 3. ライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達と健康課題について理解できる。 4. 子ども虐待、DV等について学び、母性看護の果たす役割を考察することができる。 5. 女性の就労や母性の健康にかかわる諸制度・施策について理解できる。	○		◎	○	
母性看護援助論	母性看護の対象の中で、特にマタニティサイクルにある女性(妊婦・産婦・褥婦)と新生児への看護の知識と技術を修得するために本科目を開講する。 1)母性看護学概論・母性疾患治療論の学習内容を踏まえ、正常な経過と健康障害を持つ妊産婦と新生児の看護について講義する。 2)母性関連の事例による看護過程の展開や基本的技術の演習等により、周産期にある女性と新生児・家族が順調に経過するための具体的な援助方法について説明・伝授する。 3)ディベートを用いて、母性看護に関する今日的課題について検討する。	1)正常および健康障害を持つ妊産婦と新生児に必要な看護について理解できる。 2)正常な褥婦・新生児の看護過程を展開することができる。 3)周産期にある母親と新生児に必要な基本的な援助技術を実施することができる。 4)母性看護における今日課題について関心をもち、考察することができる。	○		○	◎	○
母性看護学実習	妊娠・分娩・産褥期の母子とその家族を、心身社会的側面からアセスメントする能力、および、母子とその家族が新たな環境や役割に適応するための看護の実践能力を養うこと、合わせて、地域における母子の健康支援、関連機関との連携について学ぶことを目的に実習を展開する。	1. 妊産婦の心身の変化と適応過程を、家族のサポート状況も踏まえてアセスメントすることができる。 2. 胎児・新生児の生理的変化や胎内・胎外生活における適応過程をアセスメントできる。 3. 母子の適応過程に応じ、問題を解決するための、または健康を保持・増進するためのケアプランを立案することができる。 4. 立案したケアプランに基づき、母子に対し、安全・安楽にケアを実施することができる。 5. ケアプランに基づき実施したケアとその結果を適切に評価し、必要時ケアプランを修正できる。 6. 地域における母子の健康支援、関連機関との連携について理解を深め、退院後の母子とその家族の生活に必要な援助を考察することができる。 7. 母性看護を通して、看護者の倫理的態度と役割について考えることができる。	○		○	◎	○
【専門科目】(人間発達と健康支援)(小児看護学)			○		○	◎	
小児看護学概論	本科目は、小児看護の特徴と理念、子どもの権利、成長・発達と生活の特徴について学ぶことを目的とする。	1. 小児看護における主要な概念について説明できる。 2. 小児看護の今日的課題について説明できる。 3. 子どもの権利を尊重した看護について理解できる。 4. 現代の子どもを取り巻く社会環境について理解できる。 5. 子どもと家族を支援するための法律や施策について理解できる。 6. 小児看護で活用する各理論について理解できる。 7. 小児各期における標準的な成長・発達と過程を理解できる。 8. 小児各期における生活の特徴と健康課題について述べるることができる。 9. 成長・発達を評価する方法を具体的に提示することができる。	○		◎		
小児看護援助論	本科目は小児看護学概論での基礎知識をもとに、さまざまな発達段階及び健康レベルにある子どもと家族に対する看護の方法を学ぶことを目的とする。	1. 各発達段階にある健康な子どもの生活習慣について説明できる。 2. 各発達段階にある子どもの看護の要点について説明できる。 3. 子ども特有の症状に対する看護の要点について説明できる。 4. さまざまな健康障害・発達障害を持つ子どもと家族に対する看護援助方法について説明できる。 5. 子どもと家族を対象とした看護過程を演習で展開できる。	○		◎	○	
小児看護学実習 I	本科目は、子どもと家族を理解し、子どもの成長・発達に応じた小児看護の実践に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。科目の受講によって学生は、1. 子どもと家族の生活や社会背景を理解する。2. 意図的なコミュニケーションにより、子どもを理解し、相互関係を構築する方法を学ぶ。3. 子どもの発達に応じた援助方法を学ぶ。4. 専門職を目指す者として自覚を持ち、責任ある行動をとることができるようになることを目標とする。	1. 健康な子どもの発達と生活の特徴を理解する。 2. 子どもと保育士や教諭の相互作用の実際が分かる。 3. 子どもの保育と教育に必要な技術を体験する。 4. 集団で生活する子どもに対する健康管理活動の実際が分かる。 5. 子どもと家族を支援するチームの一員として役割を果たす。	○		○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
小児看護学実習Ⅱ	本科目は、子どもと家族を理解し、子どもの成長・発達と健康レベルに応じた小児看護の実践に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。科目の受講によって学生は、1. 子どもと家族の生活や社会背景を理解する。2. 意図的なコミュニケーションにより、必要な情報を収集する方法を理解する。3. 子どもと家族の発達と健康レベルに応じた援助方法を学ぶ。4. 専門職を目指す者として自覚を持ち、責任ある行動をとることができるようになることを目標とする。	1. 子どもの発達と健康レベルに応じて子供と関わることができる。 2. 受け持ちの子どもと家族について必要な情報収集を行いアセスメントすることができる。 3. アセスメントから必要な援助を考えることができる。 4. 看護師とともに看護活動に参加し、行われている看護の意義が分かる。 5. 子どもと家族を支援するチームの一員として役割を果たす。	○		○	◎	
【専門科目】[人間発達と健康支援](成人看護学)			○		○	◎	
成人看護学概論	成人期にある人々を対象とし、個人の尊重・ライフサイクルにおける成人の発達段階・発達課題から成人各期の特徴と健康問題をとりあげる。健康に焦点をあて、成人看護に有用な概念について学習する。さらに、健康の保持・増進、疾病予防など、健康的に生活していくために必要な看護活動や代表的な理論家の看護理論/モデルを教示し、成人看護学の基礎となる考え方や方法を学ぶ。	1. 成人期の特徴と健康問題の理解並びに成人看護の役割が理解できる 2. 対象者の健康問題に対して家族を含めた看護活動や代表的な看護理論と方法論の基礎を学ぶ。 3. 現代の保健・医療・福祉・社会情勢から、対象者の抱える問題について考察できる。 4. ストレスにおける生体反応等が理解できる。	○		◎	○	
成人看護援助論Ⅰ(慢性期)	成人期にある人が慢性疾患に罹患すると、身体的・精神的・社会的影響を受ける。症状を管理し障害を最小限にとどめるためには、本人のみならず家族を含めた看護が必要である。そこでこの授業では、慢性疾患を有する人への苦痛緩和のための援助と、生活を編み直すための対象・家族への支援方法について学ぶ。	1. 慢性期看護の考え方と慢性期看護の特徴を述べることができる。 2. 慢性期にある人の特徴を身体的・心理的・社会的視点から述べるができる。 3. 慢性期にある人のヘルスアセスメントと看護に必要な知識・技術を述べるができる。 4. 慢性期にある人の特徴と侵襲を伴う治療・検査の援助方法を述べるができる。 5. 慢性疾患が生活に与える影響を理解し、回復促進のための援助方法を述べることができる。 6. 慢性疾患により苦痛症状がある人への症状緩和に向けた援助方法を述べるができる。 7. 慢性期にある人を取り巻く家族・重要他者のもつ能力の強化のための個別的支援方法を述べるができる。 8. 慢性期における倫理的問題と看護者の役割を述べるができる。	○		○	◎	
成人看護援助論Ⅱ(急性期)	成人期にある人を対象に病気や手術などによって内部環境が急激に変化し、生体侵襲が大きい人の看護について学ぶ。急性期看護の考え方について学び、クリティカルな状態にある人の看護、手術を受ける人の術前～術後の一連の流れに沿った実践方法について学ぶ。	1. 急性看護の考え方と急性期看護の特徴を述べるができる。 2. 急性期にある人の特徴を身体的・心理的・社会的視点から述べるができる。 3. 急性期にある人のヘルスアセスメントと看護に必要な知識・技術を述べることができる。 4. 手術期にある人の特徴と術後合併症予防に向けた援助方法を述べるができる。 5. 手術後の機能的変化を理解し、回復促進のための援助方法を述べるができる。 6. クリティカルな状態にある人の特徴と苦痛緩和に向けた援助方法を述べるができる。 7. 急性期にある人を取り巻く家族・重要他者への支援方法を述べることができる。 8. 急性期における倫理的問題と看護者の役割を述べることができる。	○		○	◎	
成人看護学実習Ⅰ	慢性疾患により、生活のコントロールを必要とする対象とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた回復および適応への援助について学ぶ。また看護過程を通して、対象の発達段階と健康レベルに応じた個別的な看護の実践方法(苦痛の緩和、障害を最小限にとどめるための援助方法、対象とその家族のもつ能力の強化やQOL向上のための個別的な看護の実践方法)を学び、基本的な知識、技術、態度を修得する。	1. 慢性期にある対象の病態生理、検査・治療、一般的回復過程を述べるができる。 2. 治療を必要とする対象および家族の心理的、社会的影響について述べるができる。 3. 慢性疾患の軌跡を的確に捉え、生活の編み直しの必要性を理解できる。 4. 対象とその家族のもつ能力の強化やQOL向上のための個別的な看護が実践できる。 5. チームの一員として果たす看護者の役割について述べるができる。 6. 対象および対象を取り巻く人々の倫理的課題を理解し、学習者として責任ある行動をとることができる。	○		○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	＜態度・志向＞		＜知識・理解＞	＜技能・伝達＞	＜総合・統合＞
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
成人看護学実習Ⅱ	急性期、周手術期にある侵襲的治療を必要とする対象とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた回復及び適応への援助について学ぶ。さらに看護過程の展開を通して、対象の発達段階と健康レベルに応じた個別的な看護の実践方法を学び、看護の基本的な知識、技術、態度を修得する。	1. 侵襲的治療を必要とする患者の病態生理、検査・治療、一般的回復過程を述べることができる。 2. 侵襲的治療を必要とする患者および家族の心理的、社会的影響について述べることができる。 3. 患者の状況を的確に捉え、科学的根拠に基づいた個別的な看護実践ができる。 4. 手術室における看護の実際を理解し、述べるができる。 5. 集中治療室における生命維持と機能回復をめざした看護の実際を理解し、述べることができる。 6. 侵襲的治療を必要とする患者の看護について振り返り自分の考えをまとめることができる。 7. チームの一員として果たす看護者の役割について述べるができる。 8. 患者および患者を取り巻く人々の倫理的課題を理解し、学習者として責任ある行動をとることができる。	○		○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【専門科目】(人間発達と健康支援)(老年看護学)			○		○	◎	
老年看護学概論	高齢者についてその特徴を知り、またその社会背景から老年期を生きる人々の生活と健康について理解し、科学的根拠に基づいた看護援助ができる基礎を学ぶ	1. 高齢者の特性を健康と生活面から理解し、その特性に応じた老年看護の目標と役割を理解する。 2. 高齢者を取り巻く家族や地域社会における支援を調整し、高齢者の生活の質が確保、向上できるための援助の在り方を理解する。 3. 高齢者保健医療福祉制度の変革が老年看護に与える影響と、看護師の果たすべき役割を理解する。	◎		○		
老年看護援助論 I	加齢変化と高齢者に特徴的な身体症状、高齢者に発症しやすい健康障害・機能障害についてのアセスメント方法を学ぶ。また、食事・排泄・清潔などの生活行為と生活リズム、コミュニケーションなどにおける高齢者に特有な状況と援助技術について学ぶ。	1. 高齢者の特徴を踏まえた生活機能の視点に基づくアセスメントを理解できる。 2. 生活障害をもった高齢者の日常生活への影響や自立に向けた援助方法について理解できる。 3. 高齢者の主な疾患・症状の特徴と看護が理解できる。	○		◎	○	
老年看護援助論 II	加齢に伴う変化と健康障害をもつ高齢者の事例の看護過程を通して、アセスメントや看護計画の立案、実際の援助方法を学ぶ。	1. 高齢者の特徴を踏まえた生活機能の視点に基づくアセスメントができる。 2. 高齢者に特徴的な看護過程の展開方法を理解し、事例に基づいた看護計画を立案できる。 3. 生活機能に障害をもつ高齢者の基本的な援助ができる。	○		○	◎	
老年看護学実習 I	施設で生活している高齢者を総合的に理解する。認知症対応型グループホームにおいて認知症高齢者と直接関わり、認知症高齢者を理解する。認知症の症状、日常生活、生活環境などを知り、認知症高齢者との関わりを通して認知症高齢者の健康レベルに応じた看護援助を学ぶ。	1. 高齢者の現在の生活状況や健康レベルについて、身体的・心理的・社会的な面を把握できる。 2. 高齢者が老年期に至るまでに身につけてきた生活習慣・価値基準を考慮し、その人の強みやセルフケア能力を生かした援助について考えることができる。 3. 認知症高齢者の訴えや想いに触れることができ、認知症症状(中核症状やBPSD)を観察し、対象者との相互作用を通して安全・安楽・自立を踏まえた看護援助が実施できる。 4. 対象者の生活環境(ベッドサイド、部屋、彩光、色彩、音、廊下など)について説明できる。 5. 認知症高齢者を敬愛する態度を身につける。	○		○	◎	
老年看護学実習 II	ライフステージにおける老年期の課題および老年の特性を理解し、高齢者を取り巻く環境の実態を知ることで、高齢者観を深め、様々な健康レベルや状況下において、QOLの維持・向上を目指した援助ができる能力を養う。	1. 高齢者の加齢に伴う変化と健康障害を理解できる。 2. 高齢者の加齢に伴う変化と健康障害が日常生活に与える影響について理解できる。 3. 高齢者の健康の維持・増進、疾病予防、QOLの維持・向上のための援助ができる。 4. 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムの現状を知り、多職種との協働・連携を理解できる。 5. 実習体験を通して、高齢者の看護ケアにおける人権の保証と倫理的配慮について考察できる。 6. 看護観を深め、高齢者を敬愛する態度を身につける。	○		○	◎	

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【専門科目】(人間発達と健康支援)(精神看護学)			○		○	◎	
精神看護学概論	人は快・不快から発達する種々の感情を、他者との交流を通して体験し、“人格の成熟”をみる存在である。こうした発達論の基盤となる対人関係論を理解するとともに、各ライフステージで体験する不安・孤独・葛藤などと精神の健康保持との関連についての理解を深め、病気を障害というマイナスの体験をプラスにする精神看護の機能について学習する。	1.これまでの成長過程を振り返りつつ、授業での理解に基づき、自らの人間観・障害者観・看護観について述べるができる。 2.対人関係論を基盤にして、精神の健康と“人格の成熟”の関連を説明できる。 3.看護師－患者関係の発展過程について説明できる。	◎	○	○	○	
精神看護援助論	精神疾患患者(精神障害者)を1人の生活者として理解し、患者の訴えや症状、“問題行動”などを自立・成長に向けてのSOSと受け止める患者観について学習する。そして、さまざまな言動を示す精神科領域の患者とその家族を理解する関心の向け方と、患者と家族が自尊の気持ちを保持して、必要な社会資源を主体的に活用できる方向づける。安心感を届け自己対処能力の発揮を支援する精神看護援助技術を習得する。さらに、我が国の精神医療保健福祉政策の変遷とインクルージョンの理念に基づき、精神看護を展開するための自分自身の課題を自覚するとともに、“人と場”をつなぐ看護職業人の役割について学ぶ。	1. 精神疾患患者とその処遇の変遷、さらに精神科看護の歴史について説明することができる。 2. 患者を1人の生活者として理解し、患者やその家族が自己対処能力やケア能力を発揮できるように支援する精神看護援助技術を列挙することができる。 3. インクルージョンの理念と“住まう、働く、集う”等の精神保健福祉施設について例を挙げることができる。 4. 精神科の病棟見学時の自分の気持ちに気づき、その気づきを自己理解の手がかりとし、臨床実習での自分の課題を明確にする。	○	○	◎	○	○
精神看護学実習	精神科病棟での実習を行い、心病人(精神疾患患者)を理解するための関心の向け方と対応方法を習得する。また、特定の精神疾患患者を受け持ち、対象を理解する過程が看護であるという精神看護の展開過程を体験する。そして、さまざまな状態にある精神疾患患者の困りごとや不都合を理解し、その人らしい生活づくりを支援するための看護実践力を育む手掛かりを得る。	1. 精神疾患患者を1人の生活者として受けとめ、時間と空間を共にし、見聞きしたこと感じたことを伝えたり接することができる。 2. 精神疾患患者との交流を通して、自分の感情や思考過程に気づき、それを患者理解に活かす。 3. かかわりを通して得た情報と間接的な情報を統合して、患者の全体像を把握し必要な看護を創造できる。 4. 対象者の生活に関わる精神保健・医療・福祉システムを理解し、他職種との連携の必要性について理解を深め、看護職の役割を多角的な視点から調べることができる。	○	○	○	◎	○
【専門科目】(看護の統合と発展)(地域・在宅看護学)			○		○	○	◎
地域看護学概論	地域看護の対象と活動の場の概要を学び、看護に求められる継続性と地域の人々を援助するための関係機関・職種の理解および看護活動の専門性について考えを深めることをねらいとする。	1. わが国の健康指標から今後求められる医療と看護の動向を予測して考えることができる。 2. 地域看護活動の対象と場を学び関係する機関と職種について理解できる。 3. 看護の継続性について考え、退院後の療養者の生活スタイルを実現するための方法を考えることができる。	○		○	○	◎
在宅看護概論	在宅看護の理念と機能を理解し、関連する諸制度や社会資源の活用、多職種との連携における在宅看護の役割を学ぶ。	1. 在宅看護の理念と歴史、在宅看護が必要とされる社会的背景を説明できる。 2. 在宅看護の目的、対象の特性、活動の場、活動方法を説明できる。 3. 在宅ケアを支える法・制度・社会資源の活用方法を説明できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種との連携と在宅看護の役割を説明できる。	○		○	○	◎
在宅看護活動論	在宅で生活している療養者とその家族を理解し、基本的な生活支援と在宅で行われている医療、看護ケアを実践するために必要と技術や態度について学ぶ。地域における在宅ケアシステムを理解し、在宅看護の在り方と責任について学ぶ。	1. 在宅看護を実践するために必要とされる生活支援及び医療的管理のための技術と応用について理解できる。 2. 在宅で生活している療養者に応じた看護(事例)展開ができる。 3. 地域包括ケアシステムの必要性を理解できる。	○		○	○	◎
在宅看護援助論	在宅で援助を必要としている人の特性に応じた援助方法を身につけ、在宅看護を行う際、アセスメントから援助方法の過程がわかる。	1. 在宅看護の特徴と在宅療養者の特性を説明することができる。 2. 在宅で生活する療養者とその家族の個別性に配慮した援助方法で実施することができる。 3. 在宅看護を行う際のアセスメントから援助過程を理解できる。	◎		○	○	○
在宅看護論実習	地域包括ケアシステムの全体像を捉え、対象者の多様なニーズに応えるための多職種連携・協働の実際から、チームの一員としての訪問看護の役割を理解する。さらに、在宅療養者とその家族の生活を理解し、主体性の尊重と個別性に配慮した看護展開の実践力を養う。	1. 地域で生活する療養者や家族の健康問題・生活問題について説明できる。 2. 在宅で生活する療養者とその家族の個別性に配慮した支援計画の立案と看護展開できる。 3. 同行訪問を通して、支援計画に基づき必要な看護ケアを実施できる。 4. 同行訪問を通して、ケアチームの一員として訪問看護師の役割が理解できる。 5. 療養の場の変化に伴う看護の継続性について説明できる。 6. 地域包括支援センターの機能における看護職種の役割を説明できる。 7. 地域における社会資源の活用方法や、多職種間の連携・協働の方法を説明できる。	○		○	○	◎

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
【専門科目】〔看護の統合と発展〕(看護の統合と発展)				◎	○	○	○
健康教育論	看護の実践にいかすことができるように、健康教育の理念、方法(展開過程)および評価について理解し、健康教育の対象と健康課題にあった健康教育案および教材作成、プレゼンテーションを通して実践的に学習する。	1. 健康教育の理念、方法(展開過程)、評価について理解できる。 2. 健康教育の対象と健康課題を理解し、健康教育案を作成できる。 3. 健康教育と看護の関連を理解し活用について考察できる。		○	○	○	◎
安全管理論	看護師は医療従事者の中で最も医療事故に遭遇しやすい職種である。それは看護師が「療養上の世話」と「診療の補助」という役割を担うため、昼夜を問わず医療行為の最終稿医者や観察者となることが多いからである。看護師の役割特性から生じる医療事故を未然に防止して、患者の生命と医療従事者自身を守るための基本的知識を修得する。実際の看護場面での医療事故と安全対策を取り上げながら、看護や医療行為に潜む「危険」と「安全対策」について具体的に学ぶ。	1. 医療安全に取り組むことの意義を説明できる。 2. 看護や医療行為に潜む危険とその要因を説明できる。 3. 事故防止のために必要な知識・技術を説明できる。 4. 組織的な安全管理体制への取り組みを理解できる。		◎	○	○	○
認知症高齢者ケア	認知症についてその特徴を知ること、認知症高齢者を理解し、認知症高齢者に対する尊厳ある看護の基礎を学ぶことを目的とする。認知症の症状が生活に及ぼす影響をアセスメントし、認知症高齢者を取り巻く家族や地域社会における支援について理解する。認知症高齢者に対する尊厳と共感を持って看護を行うための基本姿勢および新たな理論と方法を学ぶ。	1. 認知症と認知症高齢者の特徴を理解する。 2. 認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するための援助方法を理解する。 3. 認知症高齢者とその家族が抱える問題やサポート体制を理解する。	○	◎	○	○	○
感染看護論	現代社会における感染症の動向を理解し、感染対策・感染管理・感染看護の実践に必要な知識を修得することを目的とする。地域・在宅から医療機関・さまざまな施設における感染予防のための基礎的知識と基本技術、スタンダードプレコーションや予防接種等に基づく感染管理の理解と諸活動について学ぶ。また、感染性疾患患者・易感染患者及びその家族等の身体的、心理的、社会的特徴及び状況を把握し、看護の役割を理解する。	1. 感染の成立と予防について理解する 2. 組織で取り組んでいる感染予防対策とそのシステムを理解する 3. 医療処置に伴う感染のリスクと感染予防方法について理解する 4. 感染症に罹患した患者に対する基本的な看護について理解する 5. 施設における感染の特徴と対策について理解する		◎	○	○	○
スキンケア論	皮膚は人体最大の臓器である。皮膚を解剖学的・生理学的に理解し、皮膚を健康に保つための方法や、臨床の場で遭遇しやすい「褥瘡」「瘻孔」のアセスメントに必要な能力と具体的なケア方法を身につける。	1. 皮膚の解剖とその役割を踏まえ、皮膚を健康に保つための方法について理解することができる。 2. 褥瘡の発生要因と褥瘡発生リスクアセスメント方法について述べるができる。 3. 褥瘡の予防のための看護について、除圧・減圧、スキンケア、栄養改善の視点から述べるができる。 4. 瘻孔部のアセスメントとケアのポイントについて述べるができる。		◎	○	○	○
緩和ケア論	ホスピスマインドを中心に据え、病気や治療でつらい思いをしている対象さんのサポートを学ぶ。「痛みと症状の緩和」と「傾聴とコミュニケーション」を両輪とした緩和ケアの体系を理解する。対象の身体的・精神的・社会的苦痛およびスピリチュアルペインを理解し、対象の意思決定支援、対象・家族の緩和ケアの具体的な方法を身につける。	1. 緩和ケアの概念を理解することができる。 2. 終末期にある対象やその家族の身体的・精神的・社会的苦痛およびスピリチュアルペインについて述べるができる。 4. 終末期にある対象やその家族の、痛みと症状の緩和のための看護方法を述べるができる。	○	◎	○	○	
救急・災害看護論	救急および災害医療における看護者の役割を理解した上で看護の実践を学ぶ。また救急・災害時、併せて急変時に必要な基本的な対応が出来るためのアセスメント能力、判断力、実践力を身につける。	1. 救急医療の概念と看護の考え方を述べるができる。 2. 災害医療の概念と看護の考え方を述べることができる。 3. 生命の危機的状況にある人の病態およびアセスメントを述べることができる。 4. 生命の危機的状況にある人の患者、家族の心理的特徴と看護について述べるができる。 5. 災害サイクルに応じた看護について述べるができる。 6. 減災教育について述べるができる。 7. 災害における被災者の心理的特徴と看護について述べるができる。 8. 救急・災害時に求められるチームワークの重要性について考えることができる。 9. 救急および災害看護の法的・倫理的問題について述べるができる。 10. 救急・急変時および災害時に求められる基本的な看護技術を身につける。		◎	○	○	○
国際医療活動	世界的には大きな健康格差があることを理解する。感染症の広がりや、生活習慣予防対策、人口問題等世界的規模で考え、健康格差の改善のため何をなすべきかを考える。	1. 国際機関が公表している各種の資料を検索し理解する。 2. 医療・保健の領域における国際的活動の現状を理解し、問題解決のため、なすべきことを考える能力を習得している。		◎	○		○

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
家族看護学	本科目は、家族を単位とする看護の考え方や、様々な視点で家族をとらえる見方、家族員の病気やしんがいと家族が相互に影響し合っていることを学ぶことを目的とする。	1. 家族を一つの単位として展開する看護の考え方について説明できる。 2. さまざまな視点で家族をとらえる見方について説明できる。 3. 家族員の病気やしんがいと家族は相互に影響し合っていることについて説明できる。 4. 家族アセスメントの枠組みについて説明できる。		◎	○	○	○
チーム医療論	チーム医療の概念、保健医療福祉のシステム、そのシステムを支える様々な専門職の機能と役割、チーム医療の実際について学ぶ。保健医療福祉システムの構成員としての看護の役割や方法についての考察を深める。	1. 他の専門職への理解を深める。 2. 多職種間の連携の重要性を理解する。 3. 多職種のなかでの看護師の役割を理解する。		◎	○		○
看護管理論	看護管理学では、人々が求める・必要とする看護、提供するべき看護・提供したいと願う看護を、効果的に効率的に実践するために、組織人としての役割、組織とその運営のあり方を考え、どのように行動するかを考える。 また、「リーダー(フォロワー)」として求められる基礎的な能力、考え方等についても学ぶ。 さらに、この科目では、自分の使う言葉の意味や内容(概念)をよくわかって、他者に具体的に説明し、納得してもらい力も身につける。	1. パワー論を学び、日常生活の中で実践してみる 2. リーダーとして必要な知識体系について学ぶ 1) 看護管理および組織の基本概念について学ぶ ・看護管理、組織とは何か。特にオープンシステムとしての組織の特徴を説明出来る 2) 管理・看護管理に必要な基礎理論と専門職の責務を明確にする 3) 基礎理論を理解した上で下記が達成出来るように取組む (1)システム理論: システムとは何か概念を活かし自分の身近な例を挙げて説明出来る (2)役割理論: 役割理論をリーダーとしてどのように活かす事が出来るか、近い将来の看護者としての自分に適用し、その考えを文章化し、友人に説明できる (3)変化理論: 何かを変えなければならない時、どのようなプロセスで取り組むべきか、変化を起こすための理論を知る (4)意思決定理論: 意思決定理論を理解し日常生活や看護における問題解決等に活かす 3. 看護専門職者の責務・看護業務基準・看護業務基準について、その基本的な考え方を友人に説明できる 4. 保健医療福祉の最近の動向と課題を知り看護への影響を考察する 5. 看護管理とは何かその概念と目的を、学習内容を活かし、鍵となる用語を用いて説明できる			○	○	◎
看護統合演習	学生の看護技術と知識が看護師教育における卒業時の到達目標の達するために、臨床の実態に即した看護技術の活用や看護を展開するための必修知識を深め、看護実践能力を身につける。 複数課題への対応、チームメンバーとしての役割、日常生活の援助や診療の補助等について事例を用いた演習を行い看護技術の活用や看護展開について学ぶ。これまでの学習成果を分析し、専門分野毎に課題を明確にし、関連教員より学習指導を受け、看護専門職業人に必要とされる知識を深める。	1. 臨床実践に即した看護技術や看護展開の方法を実施できる。 2. 看護師として必要な知識・技術を統合し、学習課題に応用できる。	W	◎	○	○	○
統合看護学実習	これまでの講義・実習・演習で学んだ知識・技術を臨地の場で統合し展開することにより、チームの一員として協働して計画的に看護を実践する能力、根拠に基づいた看護を提供する能力を育成する。また、病棟・地域連携室や他職種との連携を通じて、多様なニーズを持つ人々へ継続した看護を提供する方法を学ぶ。複数課題への取り組みや夜勤実習などを通じて、看護者としての役割や責任を身につけ、職場適応力を養う。	1) チームの一員として協働できる。 2) 療養上の援助、診療補助業務が適切にできる。 3) 在宅での療養を支えるための必要な援助について理解できる。 4) 施設および患者の健康に影響を及ぼす生活環境についてアセスメントできる。 5) 看護者の役割と責務について理解できる。 6) 看護者としての自己の課題や展望を見いだすことができる。			○	○	◎
看護研究方法論	専門職としての看護研究の意義を理解し、研究の基礎的能力を修得することを目的に、看護の現象から課題を科学的に解決して行くための研究方法を学ぶ。看護研究の目的、文献検索、倫理的配慮、研究課題の探求、研究方法、研究計画の立案、データ分析、成果発表、論文作成について講義する。	1) 看護研究の意義・目的を理解できる。 2) 看護研究のプロセスを理解できる。 3) 文献検索の方法を理解し、文献をクリティークの方法を理解できる。 4) 様々な研究方法を理解できる。 5) データ分析の基礎的手法について理解できる。 6) 倫理的配慮について理解できる。		◎	○		○
看護研究 I	ゼミナール方式で行う。学生は看護専門領域から、興味・関心のある領域の一つを選択してゼミに所属する。学生同士のディスカッション・レポート等を通して、看護学の専門領域の中で関心あるテーマや取り組むための課題を明らかにし、研究方法を検討して研究計画書を作成する。教員は、学生が倫理的配慮を考慮し、主体的に研究計画を立案できるよう、また実現可能な計画書が作成できるよう指導する。	1) 興味・関心のある事象や疑問に関する文献を収集し、クリティークできる。 2) 研究課題や目的を明確にできる。 3) 研究計画を立案し、計画書を作成できる。		◎	○		○

◎は中心となる到達、○は関連・付帯する到達を意味する。

授業科目名	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	<態度・志向>		<知識・理解>	<技能・伝達>	<総合・統合>
			ア. 看護の対象となる人間と社会への理解を深め、人間性を育み、人権を尊重・擁護する倫理観を身につけている。	イ. 生涯にわたり専門職としての目標を持ち、主体的に研究等自己研鑽し続ける能力を身につけている。	ウ. 看護学の理論、科学的判断、援助的関係形成、看護技術の基礎能力を身につけている。	エ. 一人ひとりの健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実践できる。	オ. 保健医療福祉関係者と協働し、社会全体に働きかけていくために、地域の健康課題を分析し、人的・物理的・経済的な資源を調整する実践力の基礎を身につけている。
看護研究Ⅱ	看護研究Ⅰの研究計画書に基づいて、研究を展開して研究のプロセスを学ぶ。研究課題は、専門領域における知識・技術の探究や、地域における健康課題への取り組みなどについてである。研究方法は、文献研究や調査研究、準実験研究など研究課題に適した方法とする。研究成果について発表会を行う。また、論文を執筆し、研究集録を作成する。教員は、学生の研究過程に応じて、その課題達成が可能となるように指導する。	1)研究計画書をもとに研究過程を展開できる。 2)研究成果を発表できる。 3)研究論文を執筆できる。		○	○	○	◎
【専門科目】(看護の統合と発展)(公衆衛生看護学)				○	○	○	◎
公衆衛生看護学概論	保健師の専門性・独自性を理解するために、歴史的変遷を通して公衆衛生看護学の成立基盤について学ぶ。また、社会環境の変化と健康課題、並びに健康課題に対する地域の人びとの健康関連行動について学ぶ。	1. 公衆衛生看護の理念と目的を理解する。 2. 公衆衛生看護活動の分野と対象を理解できる。 3. 社会情勢及び生活環境の変遷から保健師の本質的な役割について考えることができる。 4. 地域住民の保健行動の特性を理解できる。		○	○	○	◎
個人・家族・集団・組織の支援論	母子、成人、高齢者などのライフステージの特性、あるいは学校、産業という場の特性、および精神障害、難病、感染症、口腔疾患などの健康障害や災害の場など対象のおかれている状況を切り口として実践的な展開を学ぶ。	1.健全なライフステージの特性を理解し、予防医学の段階に沿った保健指導について理解できる。 2.学校、職場における健康管理の目的と方法を理解できる。 3.保健師の知識と技術が地域の健康問題の解決に結びつくための具体的展開について理解できる。		○	○	◎	○
公衆衛生看護活動展開論	「個人・家族・集団・組織の支援論」を基盤に、公衆衛生看護活動の目的、対象、および具体的な展開方法について学ぶ。また、それぞれの展開方法と関連づけて根拠になっている法、制度および理論について理解する。	1. 地域の人々の生活と健康を継続的にアセスメントし、地域の健康課題を明らかにする方法を理解できる。 2. 地域の健康課題に対する支援方法、計画立案展開・評価について理解できる。 3. 地域住民、関係機関や他職種との連携・調整について理解できる。 4. 地域の健康水準を高めるための社会資源開発・システム化、施策化について理解できる。 5. 公衆衛生看護活動の根拠になっている法、制度および理論について理解できる。		○	○	◎	○
公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護活動における地区管理、事例管理、業務管理、予算管理、及び健康危機管理等について理解する。	1. 特定の地域と広域的な地域の看護管理活動について理解できる。 2. 会議開催案や事業起案書の作成などを通して、地域ケアにおける調整能力を身につける。 3. 地域の健康危機管理の体制について理解できる。		○	○	○	◎
公衆衛生看護研究論	様々な健康レベルにある地域の人々(集団)を対象にした公衆衛生看護学研究の特徴と方法について学ぶ。	1. 社会情勢や地域の健康課題に応じた公衆衛生看護活動の研究手法について理解できる。 2. 既存の研究成果をふまえて研究テーマを見つけ研究計画書を作成し、実施できる。 3. 一連のプロセスを通して、研究を継続していく必要性を理解し、その姿勢を身につける。		○	◎	○	○
個人・家族・集団・組織の支援実習	地域包括支援センター活動と連動させた訪問・相談・健康教育の実践をとおして健康課題を明確にし、地域の人々の健康課題に気づき解決改善、予防する能力を見出すための公衆衛生看護技術の基本を身につける。	1. 既存の情報を整理し、踏査することにより一定の居住地域を観察することができる。 2. 訪問・相談・健康教育により地域に暮らす人々と話し合うことができる。 3. 地域組織を支援するネットワークづくりに参画することができる。 4. 地域包括支援センターと連携して地域の人々の持つ力を見出すことができる。		○	○	◎	○
公衆衛生看護学実習	地域のすべての人々の健康的な生活を支援するための地域を対象とした健康課題の明確化、対策、健康指標の評価など保健師が行うPDCAの一連の展開過程を実践を通して学ぶ。公衆衛生活動全般を担う保健師の機能を理解しその中で疾病予防・健康増進活動、広域的な健康危機発生時の体制構築から保健師の役割と保健師の活動を学ぶ。	1. 保健指導の実際を通して地域の健康課題を理解できる。 2. 地域ケアシステムにおける地域の人々や医療、福祉の他職種と協働する方法を学ぶ。 3. 地域住民、関係機関や他職種との連携・調整の実際を理解できる。 4. 特定の地域と広域的な地域の公衆衛生看護活動の特色と評価方法を学ぶ。 5. 健康危機管理の体制について理解できる。		○	○	○	◎